



すっきり快適に登れるアルプスの沢

南ア 野呂川 シレイ沢

浅井

【日時】 2009年7月19日～20日

【メンバー】 L栗原、小暮、浅井

せっかくの三連休だったが、長引く梅雨の影響で、藤岡さんたちと計画した白山の沢は中止になり、どこにも行く予定がなくなったところに、栗原さんからシレイ沢のお誘いを受けた。栗原さんと小暮さんも当初の下田から二転三転して、結局唯一天気が良さそうな南アのシレイ沢に落ち着いたのだった。シレイ沢は前から行きたい沢の一つだったので、このような機会に行くのもちょうどよいと思い、メンバーに入れてもらった。

●7/19 曇り時々雨

前夜、夜又神峠登山口まで車で入る。東京は蒸し暑かったが、ここは標高が既に1400m近くもあるので、さすがに涼しい。夏休みが始まり、夏山シーズンも開幕ということで駐車場はほぼ満杯状態。ゲートのはるか手前のスペースにかろうじて入れることが出来た。ここから先はマイカー規制のため、バスを利用しなければならない。朝一は5:30発だが、さすがにそれでは早すぎるといって、次の6:00発のバスに乗ることにした。

朝起きると、既に大勢の登山客がバス停の前に並んでいた。甲府から来る朝一のバスは5・6台くらい連ねてやってきたが、次々と登山客を乗せて出発して行った。この人の多さは久しぶりだが、さすがは夏のアルプスだと思った。我々も周囲にせきたてられるように急いで準備をして、6:00発のバスに乗る。バスは既に満席状態で、結局シレイ沢橋まで立ち通しだった。天気は良いはずだったが、直前になってまた悪い方に傾き、午後から雨の予報に変わっていた。車窓から見ると朝から厚い雲に覆われ今にも雨が降り出しそうな空模様。せっかく転進して来たのにと、少し憂鬱な気分。

シレイ沢橋でバスを降り、橋の上から沢を見上げると既に先行パーティが出だしの滝を登っているのが見えた。さらに別のパーティは橋の左側から沢に下りようとしているところであった。この人の多さも有名沢ならでは…。我々は橋の右側から沢に降りたが、足場が悪かったので、懸垂で下りた。

6:50、橋下から遡行開始。シレイ沢は出だしから大小の滝を連ねて直線的にぐんぐん高度を上げていく沢だ。出だしはやや荒れた感じだったが、やがてすっきりした溪相になった。滝が連続するが、登れない滝には明瞭な巻道がついており、多くの遡行者を迎えていることが窺えた。頑張れば登れそうな滝もあったが、何しろ簡単に巻けるので、無理して登るまでもない。さくさくと進んで行くと、やがてガイド本にも写真が載っている25mの岩壁状の立派な滝が出てきた。これは登れないので、明瞭な巻道に導かれながら左から高巻く。この辺りから沢の周囲が花崗岩に覆われ明るい雰囲気になってきた。

沢床も花崗岩の白いスラブ状になってきたと思ったら、行く手にはその花崗岩のスラブを割って一条の帯のように流れ落ちる30mの美瀑が現れた。ガイド本などでもお馴染みの滝だが、なかなか見事な眺めで大感激！しかし残念なことにこのあたりから雨が降り出し、風も強くなってきた。先行の2人パーティが左から高巻いているのが見えた。我々も滝下まで進んで、左から高巻く。出だしのスラブが急でややいやらしかったので、トップの小暮さんが空身で登ってロープをセットしてくれた。結局この沢でロープを使ったのはここだけだった。途中で追い抜いた後続の5人パーティはもっと手前から高巻いたが、これだとロープは不要のようだ。後は樹林帯の踏み跡を辿りながら滝上に出た。

その先はナメ滝が続き気持ちよく進んで行くと、10:40、早くも二俣に着いてしまった。地形図を見るとここは2180mもあり、もう沢の半分も過ぎている。天気も悪いので早めにテン場を決めたいところだが、二俣付近には適地がないので、もう少し先に進む。

右の本流に入ると、すぐ10m・15mの登れない滝が続くので、いずれも左から高巻く。巻きは山道のようによく踏まれているが、一箇所足場の悪い所があったのでお助けを出した。この15m滝を巻き終えると、対岸の岩陰に下がフラットになった絶好の幕場を発見。時間はまだ11時過ぎと早いですが、雨が強くないうちにここで幕を張ることにした。まもなく後続の5人パーティがやってきたが、彼らも今日はこの先の適当な所で泊まるようだ。

風が強いので焚火の場所にはタープを念入りに張り、風除けのために片側を銀シートで覆った。焚き木は豊富にあったので、お昼過ぎから焚火を囲んで冷えた体を温めながら宴会モードに入る。夕方にかけて時折強い雨が降ったが、タープの下で盛大な焚火にあたりながら、豊富な酒とつまみで至福の時を過ごした。雲の動きが早く、時折雲の切れ目から陽も射したが、天気は不安定で、雷も数回鳴った。夜になってからようやく風雨が収まり星空も出てきた。その夜は標高も高いのでシュラフカバーだけでは寒いくらいだった。



●7/20 晴れ

6:25、出発。朝から青空が広がり、天気はすっかり回復したようだ。右岸のガレ場を過ぎると、すぐに2350mの奥の二俣に着く。右の本流に入った所にテント2張り分くらいのスペースがあり、昨日の5人パーティはここに泊まったようだ(ただし幕場としては昨日我々が泊まった所の方が断然よい)。この辺りまで来ると水量がぐんと減り、源頭が近いことが窺える。小滝をいくつか越えながらぐんぐん高度を上げていく。後ろを振り返ると、昨日は雲に隠れて見えなかった北岳の雄姿が望まれた。北岳をはじめとする南アの高峰を見ながら沢を詰めていくというのもなかなか乙なものだ。やがて水が涸れ

ると後は涸滝登りとなる。岩がもろい所が多いので、慎重に登っていく。

上部になると傾斜が増し足場も悪くなってきたので、適当な所から樹林帯に入る。樹林帯の中は獣道が縦横に走っており、ヤブ漕ぎもほとんどなく進めた。なるべく標高の低い右方向の稜線を目指して進み、最後のハイマツを少し漕ぐと、8:10、ひょっこり稜線の登山道に出た。そこは薬師岳の少し北西寄り、周囲は白い花崗岩と緑のハイマツに覆われ、白砂青松の独特の美を作り出しているすばらしい所である。展望も最高で、バットレスを従えた北岳をはじめとする白峰三山、仙丈岳、そして遠くには悪沢岳や聖岳もよく見える。雨上がりで空気が澄んでいるせいか山々が一段と鮮明に見えるようだ。この大展望を肴に昨日飲み切れなかったビールを取り出して乾杯した。すぐ近くには昨日の5人パーティが我々よりも一足先に到着してくつろいでいた。もう一つの2人パーティはどうやら昨日のうちに稜線まで抜けたようだ。

大休止の後は、アルプスの稜線散歩を楽しみながら、薬師岳～南御室小屋～夜叉神峠経由で下山した。歩きやすい登山道なので下山は早く、5人パーティと抜きつ抜かれつ相前後しながら、12:20、ゴールの駐車場に到着した。

シレイ沢は沢自体は一日で抜けられるが、やはり沢で1泊してのんびり行くのが楽しい。巻き道はよく踏まれており難しい所もないので、初級者を連れて行く沢としても手頃だろう。なおグレードはガイド本には3級とあるが、我々の印象では2級で十分だと思った。

【行程】

7/19 シレイ沢橋(6:50)～二俣(10:40)～15m滝上の幕場(11:10)

7/20 出発(6:25)～奥の二俣(6:50)～稜線の登山道(8:10)～夜叉神峠登山口(12:20)

【地図】 鳳凰山

★スラブを流れる 30mの美しい滝

★25m岩壁状の豪快な滝

